

ただれていました。シカには、どうしようもありません。お医者さんはいないし、いい薬もありません。ただ、観音様かんのんさまにおすがりするしかありませんでした。

シカは、自分の責任で清作がやけどになり、かたわになったのだと心からわびて

「清作や、おまえは大きくなっても、力仕事や百姓はできない。だから、学問をして、右手だけでもできる仕事をしなければならんだよ。そのためかあさんは、もつともつと働くからね。」

と、強い決心を語っていました。

清作は、八歳になって三ツみ和わ小学校に入学しました。学校は、清作の家の真ま向むかいにあり、すぐ近くなのに学校に行くのをいやがりました。清作は、からかわれるすりこぎ棒のような左手を見ると、村中の子供が集まる学校に行くのがいやになるのです。